

薬害ヤコブ病問題

2001

国際シンポジウム

「薬害ヤコブ病」問題は、7月に大津・東京両地裁で訴訟の審理が終結し、それぞれ和解勧告がなされました。早期全面解決のために力の結集が不可欠です。また、ヤコブ病患者・家族・遺族の心理面も含めたケア体制の確立も強く求められています。

そこで、薬害ヤコブ病問題を考え、また「ケア体制の確立」を中心に外国の経験を学びながら、今後の対策を検討するためにシンポジウムを開催します。

プログラム

英国のCJD問題取り組みの教訓（通訳つき）

P. N. ボールドウィン氏（汚染成長ホルモン剤による薬害ヤコブ病被害児の父親）

ハラシュ・ナーラン博士（CJD研究者）

ジリアン・ターナー氏（ケアワーカー、CJDサポートネットワーク代表）

日本におけるCJD問題への取り組み、患者家族のケアのあり方

大津訴訟・東京訴訟の原告団・弁護団

上田 宗氏（医師、薬害ヤコブ病大津訴訟原告）

松山 順子氏（東洋大学大学院）

特別報告（狂牛病問題について）

小野寺 節博士（東京大学大学院教授）

日時：**2001年11月11日（日）**

10時～17時（受付開始 9時30分）

場所：**一橋大学（国立市）東キャンパス2号館2201番教室**

参加費：500円 資料代：500円（抄録は英日対訳版です）

主催：薬害ヤコブ病問題'01国際シンポジウム実行委員会

日本科学者会議東京支部第11回東京科学シンポジウム実行委員会



事務局連絡先：〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷1-29-3 外苑企画商事
担当者（藤竿）FAX. 03-3402-1694
外苑企画商事のホームページ：<http://www.ne.jp/asahi/gaiki/di/>